

# 接ぐ ~想いつなぎ合わせる~

受けつぎ  
そして、引さつぐ  
未来へ

**記録保存の大きな意義**  
市内には長い歴史や風土に育まれたそれぞれの地域固有の民俗芸能が、古くから人々の誇りとして脈々と受け継がれています。  
市内にある約50の民俗芸能保存団体は、伝統の継承のために踊り

を日々練習したり、祭りの準備・運営を行ったりするなど、それぞれの地域で活動を行っています。しかし、過疎化や高齢化に伴う地域の担い手不足により、存続が危惧される団体もあります。  
そのような課題を解消するため、市文化財センターでは市民の貴重な財産である文化財を大切にすることを育つことや、民俗芸能が適切に保存され継承されるように各団体の練習風景や奉納等を映像や写真で記録保存する取り組みを行っています。動画で残すことのメリットは、音や声といった写真では記録できないものも保存できることです。  
今と未来をつなぐ架け橋としての役割を果たしています。

王子町鉦踊りで使用する道具

# 川東町の八月口説踊

## 踊りとともに意義を伝える

一度途絶えたものを復活させることは簡単ではありません。その困難に向き合い、平成28年に再び郷土の地で舞った川東町の「八月口説踊」。復活までの道のりと伝承に対する想いを紹介します。

### 自分の生活と結び付けられれば

川東町の八月口説踊が行われなくなったのは、平成22年頃。私が町内会長になったのは平成28年です。6年ほど途絶えていたことになりました。私の中では町内会活動の一部という認識だったため、復活させる取り組みに特に抵抗はありませんでした。

以前参加していた人に協力をいただきながら、当時の踊りやお囃子の復元を試みました。その中でも苦労したのはお囃子です。聞いたことはあっても、楽譜を持っていない人や演奏できる人はおらず、音源を探すことからのスタートでした。以前、学習センターで披露したときの映像を市文化財センターからいただき、そこから取り出した音を1年目は使用しました。2年ほど前からは中古の三味線を買って自分たちで弾く練習も行っています。

後継者の問題はもちろん喫緊の課題です。ですが、その中で後世

に残していく意義であったり、地域にとって伝統文化は何であるのかを考えていかなくてはならないと思います。私たちの世代と若者の世代で考え方に乖離が生じているなかで、ふるさとを考えるとこの踊りを思い浮かべることがあるのだろうかと思えることもあります。それでも、社会的に自然回帰志向が強まっているといわれる現在、水害の抑制や水の恵みへの感謝を祈りながら踊っていることを知れば、自分の生活に結び付けることができ、その存在意義を感じることはできるのではないのでしょうか。

今後も続いていくってほしい、続けていきたいと思えるほど魅力的な踊りにしていきたいと思っています。ゆくゆくは、ソーラン節のように全国大会を開催できるほどの魅力を感じてもらえる踊りにしていきたいです。



川東町八月口説踊保存会  
かわそえ  
川添 みや子 代表

- ① 昨年行われた八月口説踊。年々参加者も増え、踊りも上達している。
- ② 毎年八月口説踊が行われる水神祭に併せて、水神周辺の草払いを保存会で行う。
- ③ 毎年4月頃に会議を行い、奉納舞に向けての日程確認を行う。

